

「豊かな地域資源を活かした 魅力ある観光都市づくり」計画

石川県加賀市

「豊かな地域資源を活かした魅力ある観光都市づくり」

■ 地域再生計画の区域

石川県、加賀市

■ 事業主体

石川県、加賀市

■ 地域再生計画の目的

地域の特性

加賀市は、石川県の最南端に位置し、東には白山連峰を望み、南には大日山をはじめとする自然豊かな山々が連なっており、大日山を源とする大聖寺川と動橋川が水田を中心とした平野部を貫流し日本海に注いでいる。この他にも鶴仙溪や柴山湯、片野などの景勝地を有しており、自然資源の宝庫といえる地域である。また、古来より九谷焼や山中塗などの伝統工芸の産地として、また、海岸部では北前船主の里として北前文化が栄えていた。併せて平野部の山代・片山津、山間部の山中の各温泉地では、それぞれの特色のある温泉文化が育まれてきたところである。

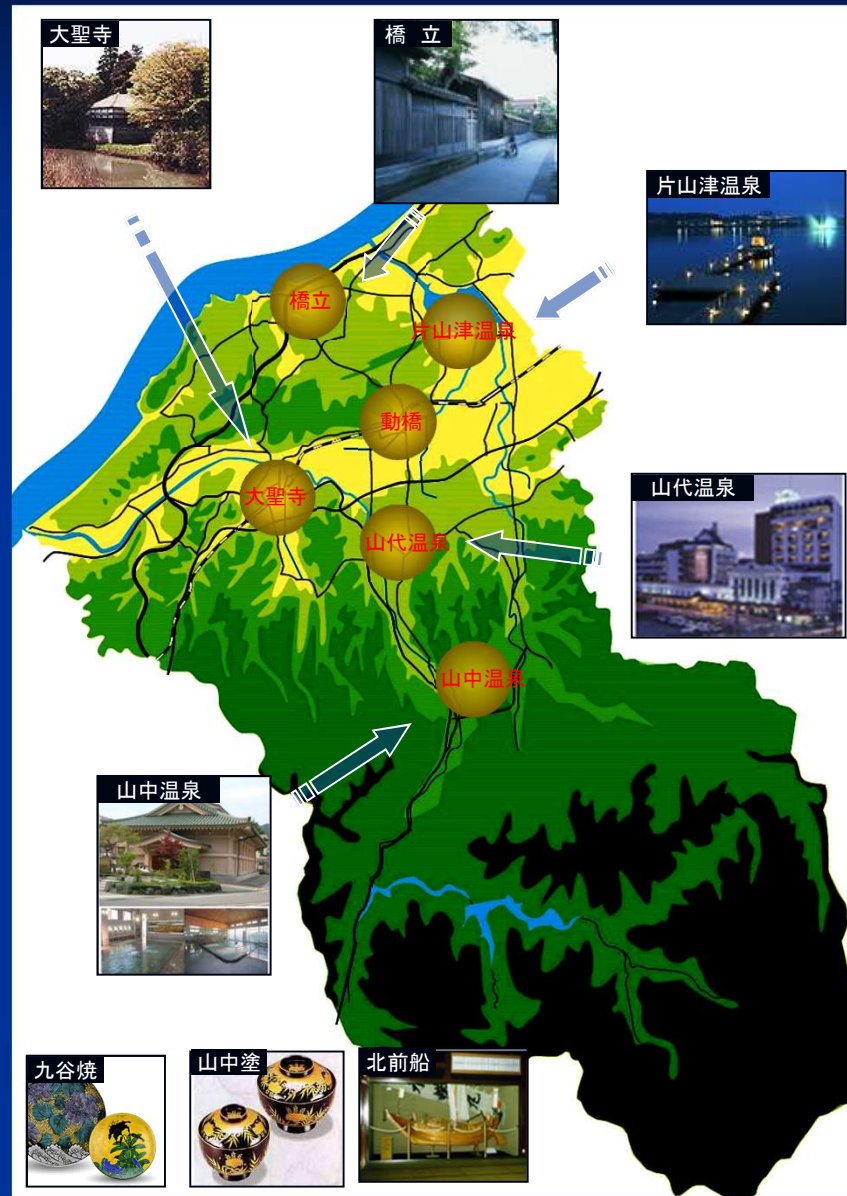
地域の抱える課題

- ・少子高齢化
- ・定住人口の減少

対応方針

- ・地域資源を生かした個性豊かなまちづくりを行うことにより、地域活力を取り戻す。
- ・各拠点間の物流や人的交流の促進、また、地場産品の輸送促進、コミュニティへの交流促進、高齢化の進展に伴い病院等への居住地からのアクセスの改善
- ・加賀市の約7割を占める山間部においては荒廃が進行している状況であるため、幹線的な林道網の整備を行い、事業の効率化や、間伐材の木材市場への運搬時間の短縮により林業振興を図る
- ・農業集落排水事業や浄化槽整備を推進することで、健康で快適な生活環境を保持し、定住人口の抑制を図る

これらの取組みにより、海から山に至る「豊かな観光資源を活かした魅力ある観光都市づくり」を行うこととする。



「豊かな地域資源を活かした魅力ある観光都市づくり」

■地域再生計画の目標



目標1 道路整備による拠点地区へのアクセス改善

- ・市道C第590号線外2路線(目標7分)(現行10分)
- ・市道C第4号線(目標28分)(現行35分)

目標2 林業の振興と地域環境の改善

- ・林道 安谷線(目標間伐実施面積の22%増加)(現行5.5ha)

目標3 交通危険箇所の解消(目標0箇所)(現行7箇所)

- 市道A第172号線、市道D第144号線、市道C第4号線、市道C第174号線、市道C第269号線、市道C第432号線、市道B第414号線

目標4 定住人口減少の抑制

- ・(目標△1.2%/年以内)

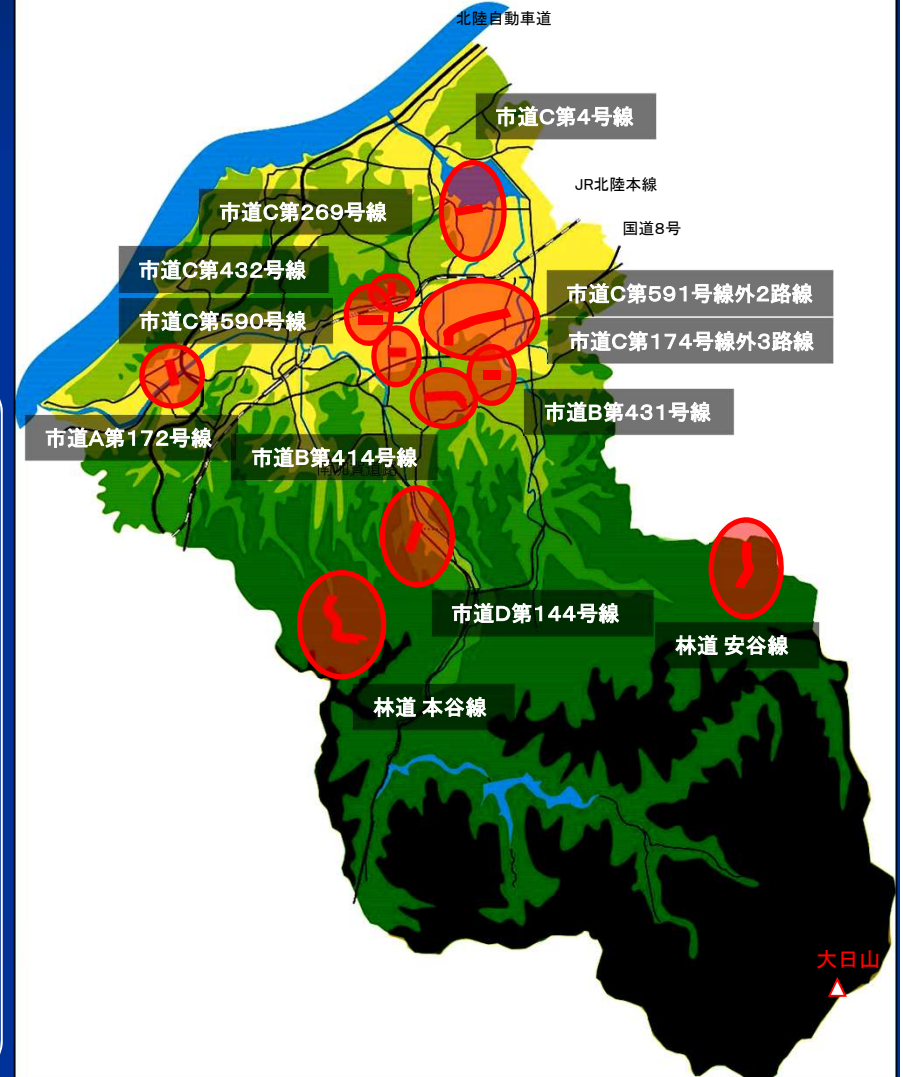
目標5 汚水処理人口普及率の増加

- ・(目標70.0%)(現行67.5%)

目標6 観光入込客数の増加

- ・(目標220万人/年)(現行198万人/年)

箇所図



「豊かな地域資源を活かした魅力ある観光都市づくり」

指標1 道路整備による拠点地区へのアクセス改善(市道C第591号線) 連絡時間の短縮→R1末実績 5分

■ 整備効果

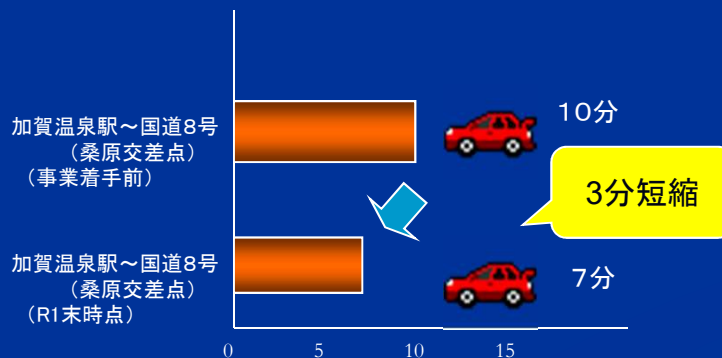
◆市道C第591号線

本路線は、加賀温泉駅から国道8号へ繋がり金沢方面へと向かう道路であり、多くの観光客が利用する非常に交通量の多い道路である。

慢性的に交通渋滞を引き起こしている桑原交差点の渋滞の解消を図るため、県道動橋山代線から国道8号までの区間においてショートカットするようなバイパス機能を持たせる線形を実現した。

整備後は、桑原交差点の慢性的な渋滞は緩和され、加賀温泉駅から金沢方面への移動時間が3分短縮され、観光客の利便性が向上し、同時に地域間交流の活性化が図られた。

移動時間(運転時間)の動向



「豊かな地域資源を活かした魅力ある観光都市づくり」

指標1 道路整備による拠点地区へのアクセス改善(市道C第4号線) 連絡時間の短縮→R1末実績 0分

■ 整備効果

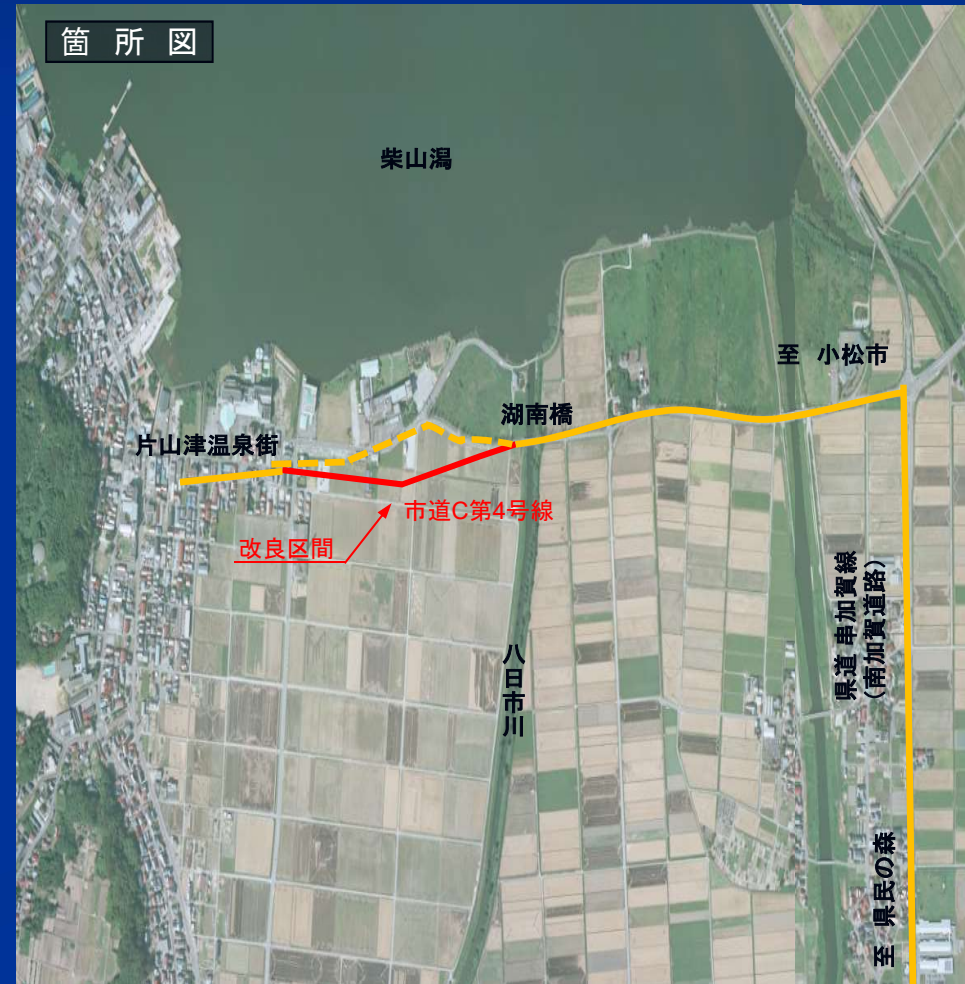
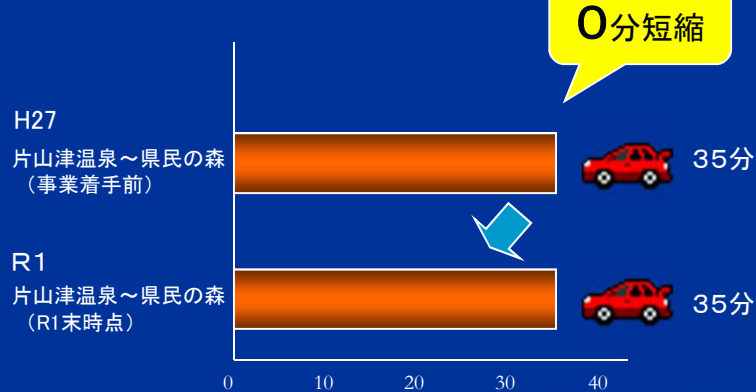
◆市道C第4号線

本路線は、片山津温泉街から県道串加賀線(南加賀道路)を通り、石川県県民の森(山中温泉杉水町)へ向かう道路であり、多くの観光客が利用する非常に交通量の多い道路である。

慢性的に交通渋滞を引き起こしている旧道のクランク線形を解消し、県道串加賀線(南加賀道路)までの区間を直線的な線形とすることで交通アクセスが改善し、物流の効率化や観光地の活性化が図られる見込みである。

整備後は、慢性的な渋滞は緩和され、片山津温泉街から石川県県民の森への移動時間が7分短縮され、観光客の利便性が向上することが期待できる。

移動時間(運転時間)の動向



「自然・文化・観光を連携させた活力ある地域づくり」

目標2 林業振興と地域環境の改善

■ 整備効果

◆ 林道安谷線・林道本谷線

森林は、木材の生産のみならず、水源のかん養や山地災害の防止など、市民の生活に欠くことができない重要な役割を果たしており、近年では木材の有効利用により地球温暖化の防止や資源の循環に寄与するなど森林の多様な働きが再認識されるようになった。

本路線の整備をすることにより、森林施業の効率化を図り、健全な森林保全を行うことを目的とする。



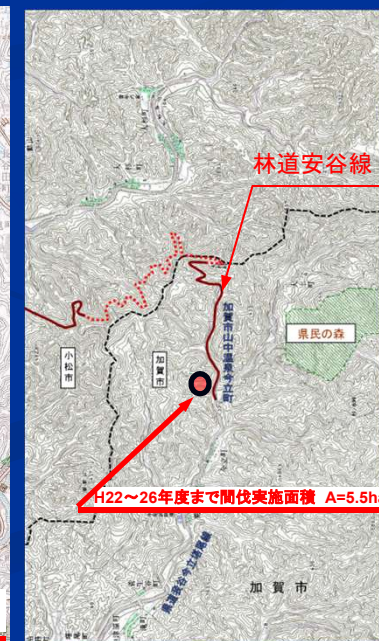
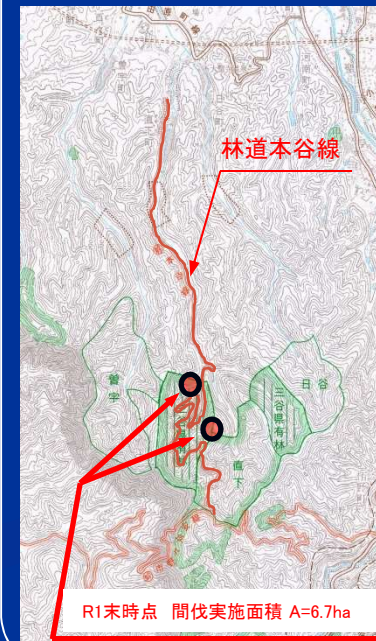
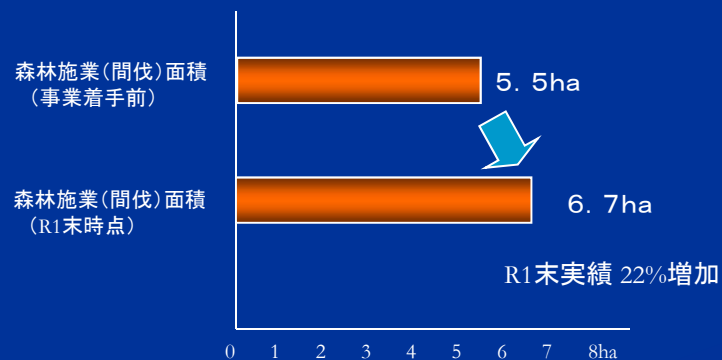
整備前



整備後

森林施業(間伐)により健全な森林形態が保全される。

間伐面積の動向



「豊かな地域資源を活かした魅力ある観光都市づくり」

指標3 温泉地へのアクセス道路の安全性確保(市道D第144号線)

■ 整備効果

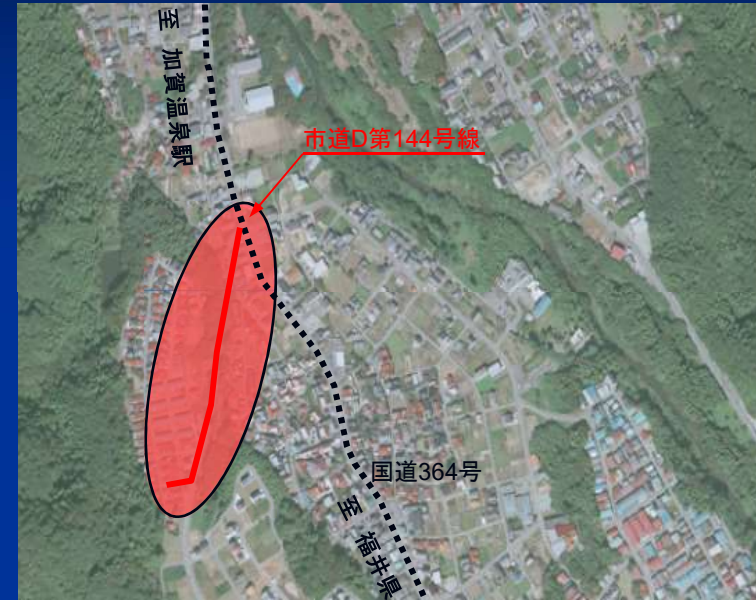
【歩道整備】

◆市道D第144号線

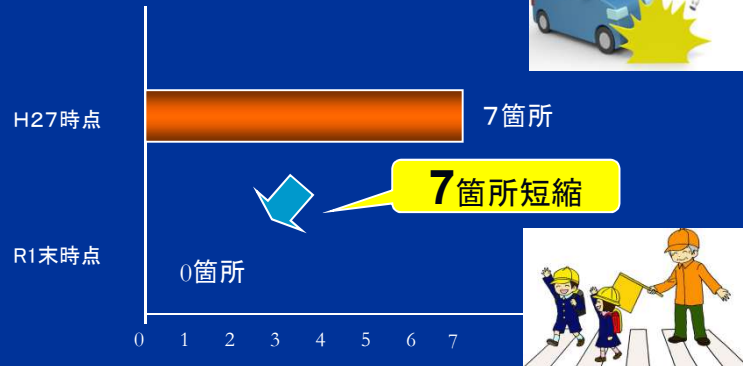
本路線は、福井方面と加賀温泉駅を結ぶ国道364号を山中温泉加美谷台を經由するバイパス路線であり、小・中学校の通学路にも利用されている大変重要な路線である。

しかし、本路線には歩道がなく歩行者は路肩を歩行しており常に危険な状況にさらされていた。

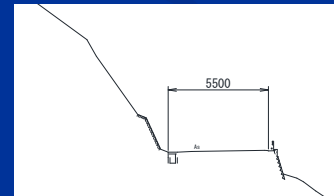
本路線の整備により、歩行空間を確保することができたことで、道路利用者の安全性や快適性を向上させることが図られた。



危険交通箇所



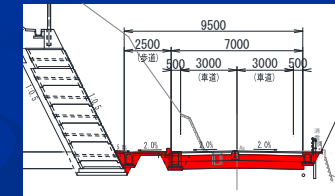
整備前



整備前



整備後



整備後



「自然・文化・観光を連携させた活力ある地域づくり」

目標4 定住人口減少の抑制

【市道整備事業、汚水処理施設整備事業】

■ 整備効果

汚水処理施設整備や下水道の普及・啓発など、公共用水域の水質保全のための継続した取組みにより、健康で快適な生活環境が保持され、定住人口減少の抑制に寄与している。
歩道整備及び舗装修繕などの実施により、交通危険個所を解消し、安心して暮らせる環境を整え、定住人口減少の抑制をはかる。

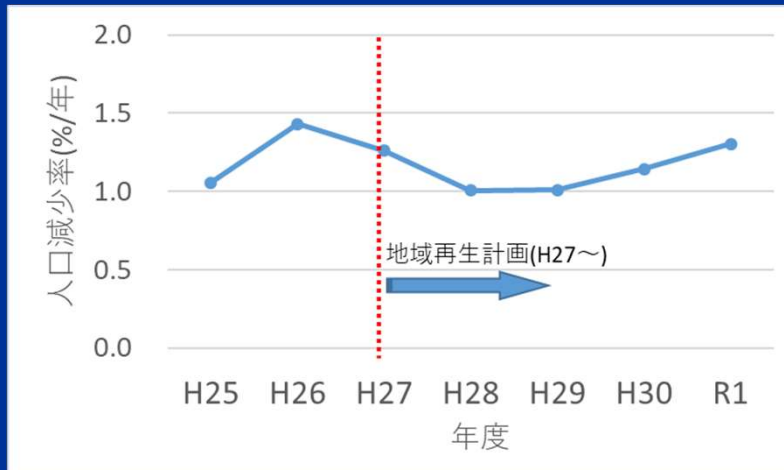


図4-1. 人口減少率の推移

■ 達成状況

地域再生計画の初年度であるH27年度以降、平均値で目標の人口減少率を維持し、最終目標を達成することができた。

表4-1. 目標4の数値目標の実現状況

指標		基準値		中間目標値			最終目標値		
		基準値	基準年度	基準年度	中間実績	基準年度	最終実績		
指標4	定住人口減少の抑制	△1.2%	H27	△1.2%	H29	△1.1%	△1.2%	R1	△1.2%

「自然・文化・観光を連携させた活力ある地域づくり」

目標5 汚水処理人口普及率の増加

【汚水処理施設整備事業】

■ 整備効果

地域再生計画による合併処理浄化槽の普及促進活動及び下水道加入促進事業並びに三木地区の農業集落排水管路施設及び処理施設の整備を行うことで、公共用水域水質保全に寄与し、市民が快適でかつ衛生的で潤いのある生活を営む一助となる。

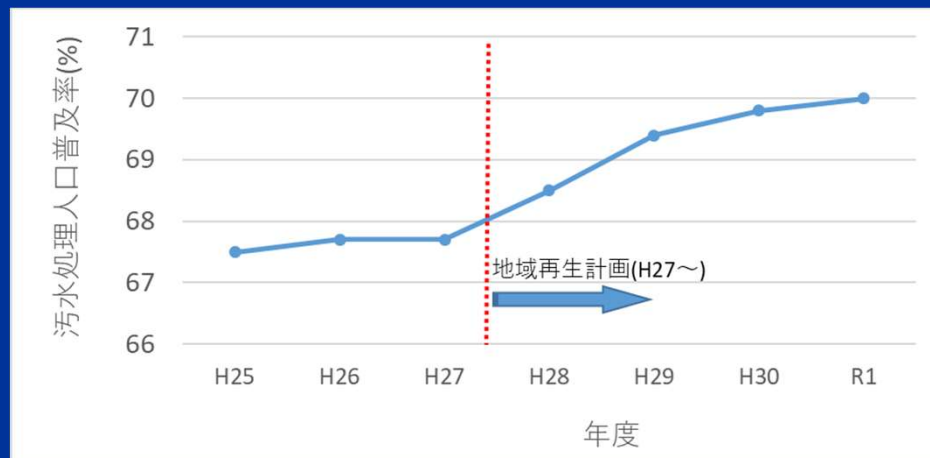


図5-1. 汚水処理人口普及率の推移

■ 達成状況

地域再生計画の初年度であるH27年度以降、汚水処理人口普及率の増加が促進されており、最終目標を達成することができた。

表5-1. 目標5の数値目標の実現状況

指標	基準値	中間目標値			最終目標値				
		基準年度	基準年度	中間実績	基準年度	最終実績			
指標5	汚水処理人口普及率の増加	67.5%	H27	68.8%	H29	69.4%	70.0%	R1	70.0%

「自然・文化・観光を連携させた活力ある地域づくり」

目標6 観光入込客数の増加

【全体事業】

■ 整備効果

地域再生計画の市道整備、林道整備及び污水处理施設整備事業により、当市が保有する豊かな自然や温泉などの特性と機能を活かした観光都市加賀市を実現する。

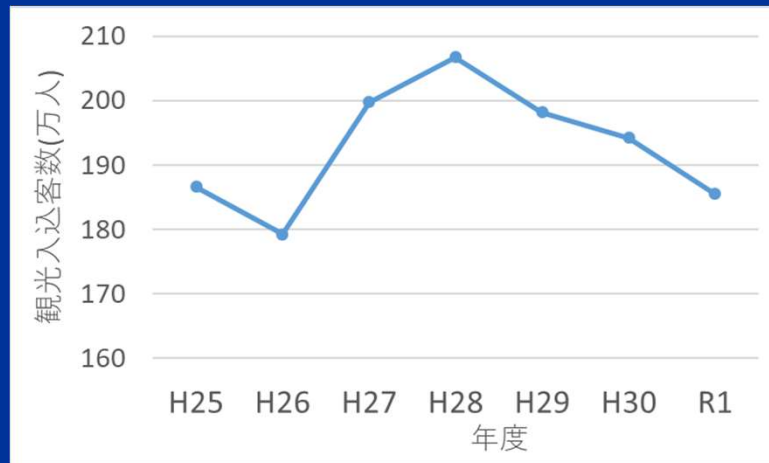


図6-1.観光入込客数の推移

■ 達成状況

最終実績は5か年平均値で197万人であり、特に後半の事業年度において台風や大雪など外的要因が大きく、目標値は未達成となった。目標達成のため、今後も整備は引き続き行っていく。

表6-1. 目標6の数値目標の実現状況

指標		基準値		中間目標値			最終目標値		
		基準値	基準年度	基準年度	中間実績	基準年度	最終実績		
指標 6	観光入込客数の増加	198万人	H27	209万人	H29	198万人	220万人	R1	197万人